

大学の地域貢献度ランキング2017の結果について

日経グローバル No. 327 (2017. 11. 6) より

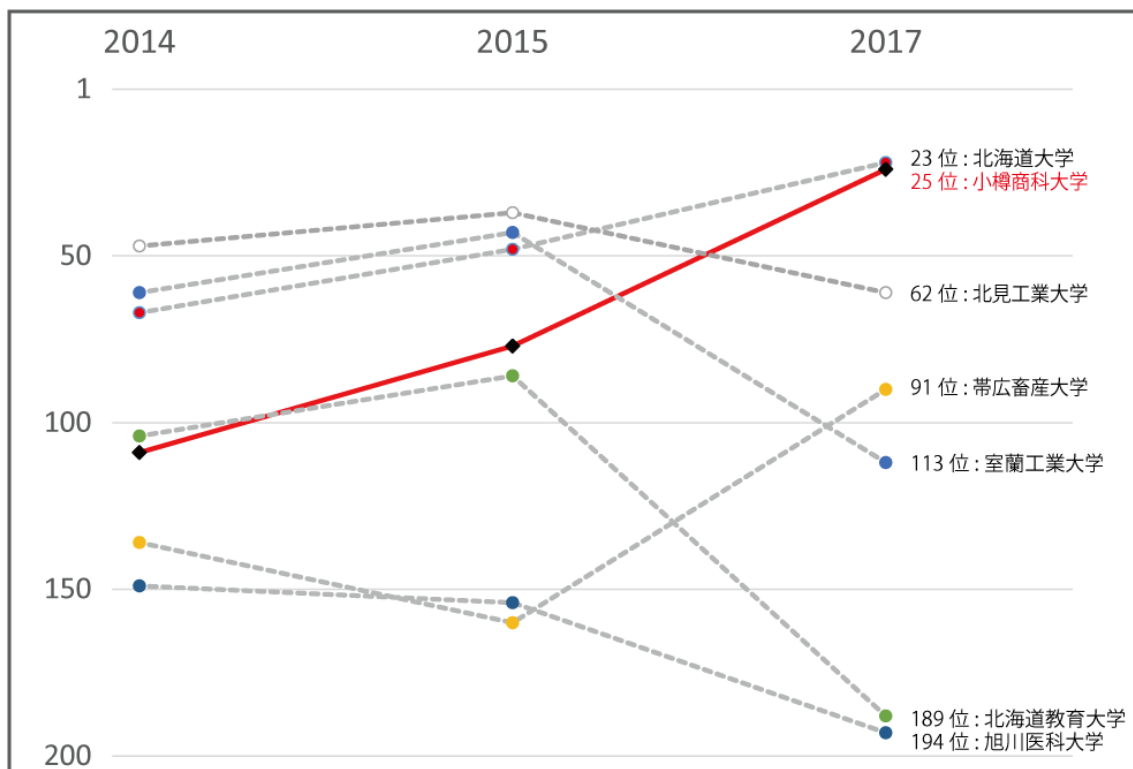
2015年まで10年間継続していた日本経済新聞社による地域貢献度調査(地域貢献度ランキング)が、2016年の休止を挟んで2017年に再開され、先般ランキングが公表された。本学のランキングは前回の78位から大きく向上して25位となり、【表1】【図1】の道内国立大学のランキング推移からも、本学のランキングの伸びが確認できる。

【表1】道内国立大学ランキング推移

2017	2015	2014	大学名	順位変動 (2015-2017)	
23	49	68	北海道大学	↑	26
25	78	110	小樽商科大学	↑	53
62	38	48	北見工業大学	↓	-24
91	161	137	帯広畜産大学	↑	70
113	44	62	室蘭工業大学	↓	-69
189	87	105	北海道教育大学	↓	-102
194	155	150	旭川医科大学	↓	-39

※ 2016は当該ランキング調査の実施なし

【図1】道内国立大学ランキング推移



今回のランキングの大幅な上昇は、地域貢献の取組を意識的・継続的に蓄積し、本学の取組事例をランキングに最大限反映させるよう、戦略的に取り組んだ結果と言える。

25位と言う順位や、前回78位からの大幅な順位上昇は十分な結果であると言えるが、本学としてはトップ10入りを目指して取り組んでいたことも事実である。結論から言えば、今回のランキングは**大規模総合大学に有利になるような仕組みに変更**されており、本学のような小規模大学が不利益を受けたことが残念である。

【表2】は過去2回のランキング結果であるが、2014と2015ではトップ10の入れ替わりがほとんどないことが分かる。本調査における地域貢献度の指標がある程度固まっていたからである。

この指標を基に、本学独自の分析により回答を作成したところだが、今回も同様の指標でランキングが決定されていれば、過去の得点データからは、本学はトップ10入りも狙えるという予想であった。

一方、【表3】は2015と2017のランキング比較であるが、2015のトップ10大学のうち、6校がランキングから消えていることが分かる。

今回のランキングに関しては、グローバル分野の得点が高い大学が上位にランキングされる仕組みであり、学生や教員の国際化、海外向けブランド化支援など、大学の規模や体力を必要とする旨が、日経グローバルの本文にも記載されている。

【表2】2015ランキングTOP10比較

2015	2014	順位変動		大学名
1	1	0	-	信州大学
2	3	1	↑	宇都宮大学
3	12	9	↑	兵庫県立大学
4	2	-2	↓	群馬大学
5	5	0	-	長崎大学
6	9	3	↑	徳島大学
7	4	-3	↓	岩手大学
8	7	-1	↓	北九州市立大学
9	6	-3	↓	大阪市立大学
10	10	0	-	長野大学

【表3】2017ランキングTOP10比較

2017	2015	順位変動		大学名
1	15	14	↑	大阪大学
2	1	-1	↓	信州大学
3	17	14	↑	鹿児島大学
4	23	19	↑	立命館大学
5	8	3	↑	北九州市立大学
6	26	20	↑	金沢大学
7	4	-3	↓	群馬大学
8	9	1	↑	大阪市立大学
9	11	2	↑	大阪府立大学
10	26	16	↑	神戸大学

また、今回のランキングが大規模総合大学に有利に働いていることは、ランキングトップ30大学を調査基準年の学部学生数順に並べた【表4】を見れば明らかである。

【表4】ランキングTOP30による学部学生数比較

2017	2015	順位変動		大学名	大学種別	学部学生数 (2016.5.1)	学生数 順位
24	126	102	↑	日本大学	私立	67,909	1
25	69	44	↑	早稲田大学	私立	42,181	2
4	23	19	↑	立命館大学	私立	32,580	3
15	32	17	↑	近畿大学	私立	32,322	4
19	48	29	↑	関西大学	私立	28,568	5
25	30	5	↑	龍谷大学	私立	19,233	6
1	15	14	↑	大阪大学	国立	15,479	7
10	26	16	↑	神戸大学	国立	11,698	8
23	49	26	↑	北海道大学	国立	11,403	9
11	39	28	↑	新潟大学	国立	10,318	10
25	33	8	↑	名古屋大学	国立	9,844	11
2	1	-1	↓	信州大学	国立	9,100	12
3	17	14	↑	鹿児島大学	国立	9,025	13
30	18	-12	↓	山口大学	国立	8,744	14
25	19	-6	↓	静岡大学	国立	8,607	15
13	22	9	↑	愛媛大学	国立	8,305	16
21	29	8	↑	熊本大学	国立	7,981	17
6	26	20	↑	金沢大学	国立	7,895	18
30	12	-18	↓	茨城大学	国立	7,012	19
8	9	1	↑	大阪市立大学	公立	6,541	20
5	8	3	↑	北九州市立大学	公立	6,163	21
15	6	-9	↓	徳島大学	国立	6,082	22
9	11	2	↑	大阪府立大学	公立	5,845	23
13	3	-10	↓	兵庫県立大学	公立	5,464	24
18	40	22	↑	島根大学	国立	5,376	25
7	4	-3	↓	群馬大学	国立	5,121	26
11	7	-4	↓	岩手大学	国立	4,800	27
22	2	-20	↓	宇都宮大学	国立	4,160	28
20	45	25	↑	横浜市立大学	公立	4,127	29
15	14	-1	↓	名古屋市立大学	公立	3,851	30
25	78	53	↑	小樽商科大学	国立	2,301	31

【表4】のうち、学生数順位トップ10の大学は、全てランキングが大きく向上しているが、学生数順位28位の宇都宮大学は、過去に2014年3位、2015年2位と健闘していたが、今回の調査では22位と大幅に順位を落としていることから、小規模大学が不利益を受けるランキングであったことが分かる。

ランキングは全大学100点満点で計算されているが、例えば下記の3つの設問の最大値は11点であるが（本学は3点）、小規模大学が不利になるのは必然である。

<p>【大規模総合大学が有利になる配点の例】 留学生の数 1000人以上：4点、500～999人：3点、200～499人：2点、1～199人：1点 外国人教員数 100人以上：3点、30～99人：2点、1～29人：1点 留学生の国内就職実績 100人以上：3点、50～99人：2点、1～49人：1点（地元就職が多ければ最大1点加点）</p>
--

また、【表5】は今回ランキングを大きく下げた大学であるが、本学よりも小規模大学である松本大学、長野大学が最も影響を受けていることが確認できる。

【表5】前回TOP30大学のうち、今回ランキングが大きく下がった大学

2017	2015	順位変動	2014	大学名	大学種別	学部学生数 (2016.5.1)
49	13	-36	17	松本大学	私立	1,509
43	10	-33	10	長野大学	公立	1,340
34	5	-29	5	長崎大学	国立	7,544
42	21	-21	18	鳥取大学	国立	5,285
22	2	-20	3	宇都宮大学	国立	4,160

なお、日経グローバル本紙を見れば分かるが、今回のランキング公表に当たっては、これまでと異なり、過去のランキング結果が併記されていない。学生数や過去ランキングとの比較が意図的になされていない以上、本学の25位という順位が全国的に取り上げられることはないと思われるが、【表6】からも分かるように、ランキング上位組のうち、小規模大学が大きく順位を上げている唯一の事例であり、数字以上の価値がある順位と言える。

【表6】前回からのランキング向上ベスト5

2017	2015	順位変動		大学名	大学種別	学部学生数 (2016.5.1)	学生数 順位
24	126	102	↑	日本大学	私立	67,909	1
25	78	53	↑	小樽商科大学	国立	2,301	31
25	69	44	↑	早稲田大学	私立	42,181	2
19	48	29	↑	関西大学	私立	28,568	5
11	39	28	↑	新潟大学	国立	10,318	10

(注) 本稿の表、図における各種数値は、全て小樽商科大が独自に調査したものである。